

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者様が見てもご家族様が見ても分りやすく、またスタッフが入居者様と共に理念に基づき地域の中で、日常生活援助が提供出来るよう、事業所独自の理念を作り上げている。		当ホームの理念は日常生活援助を行う上での基本的、かつ生活を送る上での大事な事柄を理念とし、家庭的な環境と地域住民との交流の下で住み慣れた生活を継続できるよう目指している。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフ間の意識統一を図る為、フロア・事務所と見やすいところに掲示し、理念に基づいた実践に日々取り組んでいる		理念に沿ったケアが提供出来るよう職員一同が日々入居者様と向かい合ってケアに取り組んでいる。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	御家族様には理念に基づいたケアの提供が理解されているが、地域の人々には少しづつだが浸透されてきて理解されてきている。		運営推進会議の中でも、地域住民の認知症に対する理解が周知してきているように感じ取られる。今後も推進会議の中で地域住民の理解・サポートが重要だと言う事を声を出して言っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	運営推進会議の案内状は郵送するのではなく直に手渡しをするなど、極力向き合って話ができる状態を作るようにし、職員・入居者様が隣近所に気軽に声かけを行ったり、声かけをされるような状況作りを努めている。		まだまだ隣近所との壁はあるよう思われる。町内の行事には参加ができるよう支援はしているのだが、今後もっと壁がとっばられ地域の住民にも親しまれるなホーム作りを目指していきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の行事には積極的に参加をさせて頂き、交流の場を入居者様に提供出来るよう支援している。		地域の住民が気兼ねなく尋ねてきてくれるホームを目指していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	キャラバンメイトの研修を受け、地域に認知症の理解と知識を認識して頂けるよう、認知症についての勉強会を開く為に計画は立ててる段階だがまだ実行には至っていない。		認知症の勉強会を行い、地域の住民にもっと認知症を理解して頂き、開かれたホームを目指して活動を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>奥が深い認知症を介護従事者として日々勉強を行って、認知症の入居者様と最後まで寄り添うケアを目指していきたい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>今後も意見や要望を取り入れ地域に根ざしたホームを目指したい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後も連携を図り質の向上に努めていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>この制度を理解し、当ホームでもニーズがあればいつでも相談にのれるように努めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待についての勉強会を常に関き、意識してケアが行われるよう努めていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>今後も入居者様とご家族様に疑問を持たれることなくサービスの提供に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様が意見等を表現しやすい雰囲気作りに心がけ、スタッフは日々のコミュニケーションを通し気づきができるように努めている。意見等はスタッフ間で共有し、会議等で話し合い運営に反映させている。		運営推進会議等により、外部に入居者様の意見を伝えられる機会を設け、運営に反映させていけるよう取り組んでいきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時はこちらも電話、手紙等を利用し入居者様の生活状況、新規スタッフの紹介等報告している。また今年から毎月だったホーム便りを年4回にし、より豊富な内容の新聞を発行し活動報告をしている。		今後もホーム便りを、ご家族様が見て毎日の生活がすぐご家族様に理解していただけるような便りを発行できるように努めていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不定期ではあるが家族会を実施し要望を聞く機会を設け、また面会時にスタッフが意見等を聞きだすよう心がけ対応している。外部としては入り口正面に苦情相談窓口の案を掲示している。意見等はスタッフ間で共有し、会議等で話し合い運営に反映させている。		今後、家族会の定期開催の回数が増えるよう努力し実現していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は、日々スタッフの意見や提案を聞くようにし、その意見を日常業務に生かしている。		今まで以上に個別に話しを聞く機会を多く持つようにし、意見を聞いていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフ同士で話し合い、入居者様の状況や変化の時などシフトの変更を柔軟に行えるように努めているし、行事の際必要なスタッフを確保できるよう調整に努めている。		急な病院受診などそのときそのときに対応できるように勤務の調整を図ったり、少しずつ増えてきている催し物や行事に対応すべきスタッフの確保に今後も取り組んでいき、入居者様と共に過ごす時間を提供していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新規スタッフについてはなじみの関係が築けるまでの十分な時間を確保してから、通常シフトに入らせていただいている。またOJTにて日々教育を行い、利用者にとってのケアが提供出来るよう努めている。		スタッフの異動等はやむを得ない場合以外は行なわず、離職等の希望があった場合には全スタッフが入居者様・ご家族に対するケアを意識し行うように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>講習会や研修会に参加できる機会を多く持てるように取り組んでいる。定期的スタッフ会議にて研修内容の報告や自主的な勉強会も行いケアの向上に努めている。</p>	<p>スタッフにスキルアップのため今後も積極的に研修会等の参加に努めたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>各種研修への参加や運営推進会議での同業者の参加等で交流は増えてきている。その中でお互いの今取り組んでいる活動や共通した問題等を話す機会を持ち解決に向けて取り組んでいる。</p>	<p>同業者と情報交換を密にし、サービスの向上とスタッフが悩んでいる問題の解決に向けて今後も取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフのストレスを軽減させる為に、ベンソン法を取り入れて実践させている。また、日常的な聞き取りをしている。</p>	<p>1対1で行われる個人スーパービジョン、集団で行うグループスーパービジョン、仲間同士で行うピアスーパービジョンを用いてスタッフの悩み・ストレスを少しでも軽減・解消に向けて取り組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者はスタッフ個人個人の努力・功績・勤務状況等を把握し個人個人が向上心を持って働けるように配慮し、働き続けるための取り組みに努力している。</p>	<p>上記にも述べたようにスーパービジョンを用いて、スタッフの声を聞くようにし、向上心を持って働けるような現場作りに努力したい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居初期は入居者様の環境の変化によるダメージを十分考慮しスタッフは対応している。話しやすい環境作りを行い、不安や要望を聞きだすよう努めている。</p>	<p>入居初期にはホームに対する遠慮もあるので入居者様の気持ちを正確に把握し、要望に応える努力をしていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>御家族とはいつでも話を持てる機会を設け信頼関係を築き、不安や要望を聞きだしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様とそこご家族が求める支援を全スタッフで検討し、最良の支援を提供できるように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスの内容や施設内の雰囲気等を説明し、御本人とその御家族が納得した上でサービスを開始している。スタッフとの関係作りはもちろん、他の入居者様との関係作りも支援し、サービスの導入に関しては特に注意を図っている。		今後もスタッフ一同認知症の利用者様だという事を周知し取組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活をする事により知識や経験を学び、また入居者様を敬う心を持ちながら支えあう関係を築いている。		今後も一緒に寄り添うケア・支えあうケアを行っていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とは連絡を密に取り合い、入居者様が安心して生活ができるよう良い関係を築いている。		今の入居者様の生活状況を御家族様に連絡を行い、今後も御家族様から信頼されるよう努めていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様と御家族様の関係の理解に努め、ホームでの生活状況の報告を行い、来所時等には良い関わりができるよう環境整備を行っている。また、スタッフからも話題提供などをして楽しい時間が過ごせるよう努めている。		御家族の想いを把握し、より良い関係を築いていけるよう支援していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様が大切にしてきた知人等との人間関係の継続は重要であるとスタッフは理解しているが、こちらから訪問していくという支援までは実施されていない。		社会的孤立を防ぐ意味でも、今後はこちらから訪問できる支援体制を構築していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとりがお互いに尊重しあい、入居者様同士が関わり合いをもてるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後においても御家族が不安にならないよう関わり合いを持つよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりのニーズを把握し希望、意向を尊重することに努めている。またスタッフは日々入居者様の希望の把握に努め、その人らしい暮らしが継続できるよう努めている。		毎月のカンファレンスまた必要時に身体状況・生活状況に変化が見られたときなどスタッフ全員で検討を行い、サービスの提供に努めている状況を今後も取組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族からや日々の入居者様とのコミュニケーションにおいて知り得た生活歴やサービス利用の経過は介護記録やセンター方式シートを利用しスタッフ間で共有し把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別の介護記録を詳細に記録し、現状及び変化の把握に努めている。また引継ぎノートの利用や口頭での申し送りにより、入居者様の状態を理解し把握している。		センター方式をもっと活用し、入居者様の毎日の生活を今まで以上により良くするために努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員はスタッフと協力し、定期的に介護計画の評価・作成を行っている。また御家族とは連絡を密にし、御家族様の要望と入居者様にとって最善な介護計画となるよう取り組んでいる。		常に入居者本位となりまた、生活の向上に向けての介護計画を作成しサービスの質の向上に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し	介護計画の評価を毎月のカンファレンスの時に評価し、また期間に応じて行い、常にニーズの変更が無いかを確認しながら行っている。また現状での身体の変化が見受けられたり入院をしたりした場合など、本人・家族・スタッフなどと話し合いケアプランの変更を行っている。		毎月のカンファレンスでのスタッフとの密な話し合いで評価を出しているが、少しずつアセスメントの強化に努め、今本人が何をしたいのか、どう生活をしていきたいのかを深く掘り下げプランに反映し、今まで以上にサービスを提供していけたらと思っている。
38 個別の記録と実践への反映	介護支援専門員はスタッフと協力し、定期的に介護計画の評価・作成を行っている。また御家族とは連絡を密にし、御家族様の要望と入居者様にとって最善な介護計画となるよう取り組んでいるのだが、ホームとしては外泊も十分考慮しているのだがアプローチが足りないのか、実践には至っていないのが現状である。		常に入居者本位となりまた、生活の向上に向けての介護計画を作成し、質の向上に努めていきたい。またご本人様・ご家族様にアプローチを行い、外泊を実践できるよう努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援	事業所としてグループホームの運営の為、多機能性を活かしたサービスは提供できないが、ホームとしては、入居者の急変時にもすぐ病院受診ができるよう対応を行なっている。その時々入居者様・御家族様の要望に応じた支援ができるよう対応している。また季節の折々に急遽入居者様を楽しめる状況を常に提供している。		今後老人クラブ・家族会・地域包括センター・ボランティアなど情報を取り入れ、サービスの提供に努めていく努力をして行く事とホーム独自のサービスも提供し、入居者様との関係構築のためとスタッフのスキルアップのために今まで以上に取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働	少しずつだが、必要に応じて色々な機関と協力しながら支援をしている。		今後もっと色々な機関をフルに活用し、入居者様やそのご家族の意向に沿えるよう努力をしていきたい。
41 他のサービスの活用支援	地域のほかのケアマネやサービス事業者との話し合いの場は常に設けているが、他のサービス活用には至っていない現状である。		今後は必要時には活用できるサービスの提供に努めていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働	地域包括支援センターと常に協働し、権利擁護や総合的かつ長期的なケアメントを提供出来るように努めている。		今後も入居者様がより良い環境で生活できるようまた、スタッフが常に寄り添うケア・その人らしさ・普段着でいられる生活の支援を図れるよう地域包括支援センターとの連携を密に図り、いろいろと情報を取り入れ支援していくよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者様の急変時にもすぐ病院受診ができるよう対応を行なっている。またその時々入居者の身体状況についても、気軽に相談ができる看護師の確保にも努め、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		今後緊急時でもすぐに対応ができ、ご本人様、ご家族様が安心できる状況の確保に努めるほか、スタッフが常に安心して受診できるよう取り組んでいきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者様の精神的不安定が見られたり異常が見受けられたりした時などは、認知症の専門医に受診し症状や薬の内服など相談したり、治療できるよう体制は整っている。またすぐ対応できるよう支援している。		今後、もっと密に連携が図れるよう協力していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	地域の訪問看護ステーションと契約をし、定期的に日常の健康管理を行い、看護師と気軽に相談できる環境を作り、連携を密に図り異常時などすぐ医療機関と対応できるように努めている。		今後もっと密に連携が図れるよう協力し、緊急時でもすぐに対応ができ、ご本人様、ご家族様が安心できる状況の確保に努めるほか、スタッフが常に安心して受診できるよう取り組んでいきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際などは見舞いに行ったり、担当の看護師と今の状態等の情報交換を密に図り連携している。また退院後気をつけなければならない事なども情報として早期に聞くようにし準備している状況を作っている。		今後もこの状態の維持を図れるよう努力をしていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアのあり方についてはスタッフは周知しており、早い段階からご本人様とご家族様の意向を聞き、かかりつけの医師等と繰り返し話ができる状況を作っている。その情報を全員で共有し方針を固めて支援できるように努めている。		今後、もっとご家族様とターミナルケアの事で話を掘り下げ、具体的な話を行っていくように努め、御家族様にも御本人様にもより良いケアの提供ができるよう取り組んでいきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医と訪問の看護師と共にチームとして支援できるよう、常にスタッフ間で検討し、定期的な勉強会などではシュミレーションを行ったり準備を行っている。		ターミナルケアの研修会などに参加し、常に新しいターミナルケアを提供できるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	当ホームではまだそのような入居者様がいらっしゃらないが今後の事を踏まえダメージを防ぐ事を考えていきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様一人ひとりに合わせ親しい声かけ又は丁寧な声かけと失礼の無い様、個々人に合わせた言葉かけを行い、尊厳を大切にしている。また、個人情報類に関しては管理の徹底化を図っている。		言葉かけ一つで不愉快な気持ちにさせてしまうこともある為、常に尊厳の気持ちを忘れずに言葉かけを大事にして今後も取り組んでいきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	畑を作り、作物の世話をしたり、また料理好きな入居者様に台所の手伝い等を積極的にして頂いている。スタッフもそのような支援が出来るよう働きかけを行っている。		入居者様が散歩を希望されるような時は、時間によっては全てが希望に沿えない時もあるが、極力時間を提供できるよう努め、個人個人のニーズに合わせてサービスの提供に努めていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床から就寝される時間は入居者様の意思(その人らしさ・生活習慣等)にまかせており、また食事の時間以外は入居者様個々のペースで過ごされている。		これからもスタッフが必要と思った時は、声かけをするが今の取り組みをこの先も維持し、「いつも主体は入居者様」という気持ちを周知しサービスを提供していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	御家族の意向を聞き、散髪等を行うように努めている。		服装等に関しては、季節に合った服をスタッフが入居者様と相談しながら季節感を感じる様に今後も取り組んでいきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	入居者様が育てた野菜を、入居者様と一緒に台所に立ち、食事の支度・後片付けを行うようにしている。		今の状態を今後も維持していけるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気により控えなくてはならない入居者様に対しては、我慢していただく事もあるが、基本的には入居者様お一人お一人の好みの食べ物、望む物を日常的に楽しめるよう支援を行っている。		入居者様が懐かしがり、好むおやつや入居者様と一緒に作るおやつなどを考え、週2回ほどは今後提供できるように努めたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	意思の疎通が出来ない入居者様は定期的にトイレ誘導を行いトイレ介助を行っている。		毎日の記録の中で一人ひとりのパターンを把握出来ているため入居者様の排泄のサイン(そわそわしている等)を読み取りケアを行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を勧め、拒否があった場合などは、入居者様の意思を尊重し入浴を提供している。またご自分で意思疎通出来ない入居者様は決定できない入居者様に対しては適時スタッフで入浴日を管理させて頂き支援している。		当ホームでは入居者様一人ひとりにゆっくりと入浴をして頂きたいため1日2人から3人とし一人ひとりに適した入浴時間の提供に努めている。また入浴しながらマンツーマンで話しをしながらコミュニケーションを図り有意義な入浴時間を提供できるように今後も努めていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床、就寝は、入居者様の意思に任せており個室をご本人様のなじみの空間を提供しているため、安心して休んでいられている。		今後も居室の生活環境を整え、ご本人様にとって良い空間を提供できるよう努めていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様御本人が「俺がやる・私がやる」と積極的に言ってくださる事は日々の生活の中で行って頂いている(洗濯物を干す・たたむ食器洗い等)または地域の行事(仮装盆踊り大会等)の参加やドライブ等々楽しんで頂けるよう、日々の生活が単調にならないように支援している。		一人ひとりのニーズに合わせて個人的支援を少しずつ増やしながらかれからも支援に取り組んでいきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で管理が出来る金額は入居者様の管理に任せている。それによってのトラブルは起こっていない。時にはそのお金で入居者様とスタッフが一緒に買い物に出かけ、ご自分の財布からお金を払っていただけるような支援を行っている。		個人個人の尊厳を重要視し、できない事を声かけ・誘導等で支援をする事を今後も行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	畑に行かれたり庭の散歩など、好きな時間に自由に外に行かれるよう支援している。スタッフが同行するときもあるが同行できない時などは、常に声かけ・目配りを行い、所在の確認を行っている。		スタッフの人数にも制限がある為、いつも同行出来ないのが現状であり、人数的にも、時間的にももっと余裕を作るようにし、入居者様に日中なら何時でも、行きたい時に出て行ける環境を作っていきたいと思っている。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者様との話の中で行ってみたいと思っている事を見出し、お花見・お祭り・デパートに買い物など提供している。また一緒にお弁当を作ったり、ドライブに行くなど、その都度スタッフ間で計画を立て実施している。		入居者様は病院受診などニーズに合わせて外出支援は行っているが、家族と共に花見などの外出がなかなか出来ないのが実情であり、家族と共にホームのユニット単位で出かけられる場を提供していきたいと思っている。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話や手紙の希望や訴えられない入居者様に対して支援がなかなか出来ないのが実情であるが、定期的に写真入りの新聞を作り、それをご家族様に郵送し、近況報告を行っている。		訴えの出来ない入居者様にもこちらから電話をかける事の支援したり手紙を送る事の支援を行える環境作りに取り組んでいきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪された時には各自、居室・フロアなど入居者様の意思で決めて頂き、お茶やコーヒーなど飲み物を飲みながらお話しをして頂いている。またスタッフも一緒にお話しをさせて頂いたりと有意義な時間を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員の勉強会を定期的に行っており正しく理解し、実践している。		常に色々な機関で行われている研修会に参加し、新しい考え方の身体拘束をしないケアの実施に今以上に取り組みたいと思っている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	同上		徘徊される入居者様には常にスタッフが見守り、自らホームに戻ってこられるように声かけしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わずスタッフがフロアにあり、入居者様の行動の見守り・目配を常に行い、所在の把握に努めている。		状況によってスタッフがやむを得ずフロアをあける事もありスタッフ同士の所在を言葉かけを通し確認している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様一人ひとりの状況、状態により事務所で預かり管理をしている。出来る限り入居者様に納得していただけるよう説明を行いご家族様にも説明し理解して頂いている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月のケア会議、毎日のスタッフ間での申し送りの中で、入居者様の個々の状態を考え、安全に配慮している。転倒・窒息・誤薬など事故が起きた時は同じ事が再び起きないように考察・今後の対応をスタッフ間で検討し、今後の事故に繋がらないよう努めている。火災については、定期的に報知器のチェック、訓練を行い、いかなる状態になった時でも迅速に行動が出来るように努めている。		誤薬・事故発生時のマニュアルを作成し同じ事が再び起こらないよう徹底した対応を行なっている。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ間で急変・事故のマニュアルを共有し、どんな状態でも迅速に同じ行動が取れるよう努めている。また年に1度消防署や応急手当の対応の研修に出て各自訓練を受けている。		研修だけの対応ではなく、緊急時の対応の仕方・事故発生時の対応の仕方をすぐ行動に移せるような状態を作れるようホーム内の勉強会の強化に努めている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2度、関係者立会いの下、火災訓練を行っている。その際、避難経路を確認し各自シュミレーションをしながら訓練を行っている。		水害、地震についての対応はしておらず、今後マニュアル作りを行い、ホーム内の勉強会にて各自シュミレーションをし、いつでも対応できるよう取り組んでいきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者様それぞれの状態・状況により、その都度ご家族様との話し合いを持ち理解して頂いている。		入居者様の状況・状態の変化があったときなどその都度ご家族様にその経緯を報告・今後の対応を説明し理解、納得をしていただけるよう努力している。入居者様に出来る限り抑圧感のない生活をして頂き、私らしく・その人らしくと日々の暮らしを大切にしていけるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>入居者様の中には、症状を訴えることが出来ない方もおられ、スタッフ一人ひとりが異変に気づき、記録やスタッフ間との情報の共有の下で早期発見に繋がるようケアを行っている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>内服薬の支援は入居者様一人ひとりの病状・症状にとって必要不可欠な支援であり、入居者様がホームで穏やかに過ごせるようスタッフが服薬の支援を行っている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>高齢者は生活状況が少しでも変化するだけで便秘になる傾向にあり、そのため入居者様の身体状況により下剤をやむをえなく使用しているが、できるだけ自然に排泄していただけるよう、食事や水分摂取・運動・マッサージなどを積極的に取り入れ自然排便を促せるよう取り組んでいきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>口腔内の清潔保持は、美味しく食事をして頂くほか、疾病の予防にも繋がるため、今までは1日2回行っていた口腔ケアを毎食後行うようにし、入居者様全員の口腔内の環境を整え、疾病の予防に努めていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>高齢者は、食事摂取量が減少したり、口渇の状態が判らなくなったり、訴えなくなったりまた排尿回数が増えるため、水分を控えたりする傾向にある。食事摂取量が減少すると貧血や低栄養状態となり、疾病の発生の原因となる場合もある。それを予防するためにも、入居者様一人ひとりの状況に合わせて、スタッフが酔う観察を行い、配慮し水分の提供を行っていくよう努めたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>高齢になると免疫力も低下し、様々な感染症を引き起こすリスクが高まる。感染症に感染することにより命を落とす危険性があり、外部やスタッフからの感染またはホーム内での感染症の蔓延を予防しなければならない。そのためには日頃からスタッフの感染症の認識と徹底した消毒・除菌、発生した場合などの感染の広がり、スタッフが媒介者となりうる事も含め今後もこのことを周知徹底して継続して行っていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材もスタッフ一人ひとりが新鮮な食材を使用し食事を提供しており、入居者様個人の食べ物でも、一定期間経過したら廃棄するなど徹底している。調理器具や台所用品・食器については、必要時塩素系の洗剤を使用し消毒を行い、衛生面に気をつけ管理を行っている。</p>		<p>入居者様には常に新鮮な食物を食べて頂くと共に、生命の危険と常に隣合わせだと言う事をスタッフに周知させ、食中毒の予防に今後も努めていきたい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の入り口にそれぞれユニット名を掲げ、玄関や建物の概観が無機質にならないよう、花を飾ったり、手作りのものを壁にかけたりと出来るだけ家庭の雰囲気を出している。またポーチには季節の花を植え、ホームの来訪者や入居者様・家族・スタッフの目をいつもごまかせてくれている。フロアのベランダからは、季節感を感じることが出来るよう花や木を植えている。</p>		<p>建物の玄関は、その施設の顔だと言っても過言ではないと考える。無機質でいかにも施設というものが前面に出ていけば、入居者様のご家族や地域住民の方が引いてしまうのではないかと思われる。そのような状況を作らないよう常に工夫を行っている。今後も工夫をして、外部との交流やご家族さまとの接点が増えていくよう配慮したい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有の空間も玄関と同様に行っている。行事の際の写真や、施設で発行している「すいせん新聞」、スタッフと入居者が一緒に作成した物などを飾り居心地の良い空間の提供に努めている。</p>		<p>入居者様は、日頃よりホーム内で過ごされる事がほとんどである。そのため季節の移り変わりを感じる事が少なかったりする。ホーム内にも季節を感じるような物を飾ったり、行事に係わるものを飾ったりすることで入居者様は、季節感を感じ取ることが出来たり、入居者様とスタッフが共通の話題を共有でき思い出話をしたりと認知症に有効な係わり方が提供できる。今後も継続して入居者様と一緒に共通の話題作りを行っていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者様の共有スペースであるフロアには食卓テーブル以外にも数台のソファや椅子を用意し、入居者様がのんびりと過ごしていただけるようにしている。入居者様が一人になりたい際は自ら居室に行かれたりのご自分の意思で行動が出来るようにしている。</p>		<p>グループホームは少人数での共同生活を営むところであり、フロア内には一人で過ごすスペースはないが、廊下などに外を眺めながら一人で過ごせる場所を提供している。入居者様はその場所で過ごされたり、居室で過ごされたりとされているが一人で過ごす時間も大切と考え、過ごされている場所を時折見守ったりし、入居者様に配慮している。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際になじみの物の重要性をご家族に説明して、持参して頂いている。居室の模様替えなどを希望された場合は、スタッフが対応し入居者様と一緒に居心地よく過ごせられるよう工夫している。また新しく用意された物であっても、御本人様を使用しやすいようラベルを貼ったりと工夫を行っている。</p>		<p>御本人様のなじみの物を使用することによって、「自分の部屋」という認識をもって頂けるよう、また安心して過ごして頂けるようにすることが大切だと考える。今後も取り組んでいきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室において窓を開けたり、換気口と空気清浄機で空気の清浄化を行っている。温度調節においてもスタッフ間の連携により適切に行えるよう管理している。冬など空気が乾燥する際には加湿器や洗濯物を居室で乾かしたりして乾燥を防ぐよう対応している。</p>		<p>悪臭などがたちこめると誰もが不快を感じる。また温度調整や湿度調整が適切に行われないと感染症の懸念もある。それを予防し、入居者様に快適に過ごして頂くためにも今後も取り組んでいく課題である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>入居者様一人ひとりとはそれぞれ身体の状況が異なる為、スタッフは入居者様全員の身体状況を熟知し、ホーム内において安全・安楽に過ごして頂けるように努めている。今後もこの事をスタッフが周知徹底してケアを提供していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>それぞれの共有スペースには、看板が設置してはいるが、高齢者は白内障などの特有な既往を呈している方もいるため、どのような症状の入居者様が見てもそこが何処なのか、何なのかを分かりやすいように今以上に工夫を重ねていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>入居者様に、季節を感じていただくことは認知症にとって大切な事であり、花壇や畑を設け、花壇で咲いた花を飾ったり、生けてもらったり、畑で収穫して頂いたりスタッフと入居者様が共に共感でき、交流が図れる活動を今後も継続していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・天気の良い日は、出来るだけ利用者と外出して、ホームの中だけでは感じ取れない外の気温の変化や季節の移ろいを五感を使って味わって頂けるように努めている。

・居室の清掃も毎日出きる限り利用者と共に行う。残存機能を活用しつつ、その中でコミュニケーションを図り信頼関係の構築に努めている。